令和６年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

（清原地区）

宇都宮市総合政策部広報広聴課

令和６年度　第２回
まちづくり懇談会《清原地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は，まちづくり懇談会≪清原地区≫における発言の要旨をまとめたものです。

１　**開催日時**　令和６年７月１０日（水）午後６時３０分～午後８時００分

２　**開催場所**　清原地区市民センター

３　**参加者数**　８３人（市出席者除く）

４　**市出席者**　市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，
清原地区市民センター所長，道路管理課長，広報広聴課長

５　**懇談内容**

（１）**地域代表あいさつ**　　清原地域振興協議会　会長

（２）**市長あいさつ**

（３）**地域代表意見**

No.	テ　ー　マ	所管課
1	中学生が考えるＬＲＴと清原の未来	ＬＲＴ整備課
2	清原中央公園の更なる活用について	スポーツ都市推進課 ＮＣＣ推進課
3	エコパーク板戸跡地の早期利活用の要請について	廃棄物施設課 廃棄物政策課

（４）**自由討議**

No.	要　　望	所管課
1	ＬＲＴを活用した清原地区の活性化	ＮＣＣ推進課 ＬＲＴ整備課
2	地域内交通の活用について	交通政策課
3	清原地区ライトライン停留場の駐輪場の屋根の設置について	道路建設課
4	清陵高等学校の存続について	教育企画課
5	ライトラインの時刻表について	ＬＲＴ管理課

6	暮らしやすいまちづくりについて	交通政策課 ＮＣＣ推進課

（５）来賓あいさつ

市議会議員　佐藤　孝明　氏
市議会議員　河田　敦史　氏

（５）市長謝辞

■地域代表意見１（要旨）

テーマ	中学生が考えるＬＲＴと清原の未来

清原中学校は現在，全校生徒数が８００人を超える宇都宮市で最も生徒数が多い中学校である。昨年の１２月「地域未来会議」が行われた。中学校の代表生徒と地域の代表である清原地域振興協議会と清原中学校地域協議会の方々との，世代を超えた会議である。この「地域未来会議」では，「ＬＲＴ開通に伴う清原地区の変化」について，話し合いが行われた。

ＬＲＴの利点としては，バスや自動車と違い，渋滞に巻き込まれることが少ない為，短時間で移動が出来る点がある。

また，停留場までの通路がスロープであったり，手すりや点字ブロックが付いていたり，停留場のホームと車両との隙間や段差をなくし，誰にでも利用しやすくなっていたり，運賃の上限が定められており，低運賃で乗ることが出来るなどが挙げられた。

清原中学校の生徒が受けた恩恵としては，移動が簡単になったことから，高校受験の志望校の選択の幅が広がったことや，芳賀や陽東の方面から通う学区外の生徒やゆいの杜に住む生徒の登下校がしやすくなったことなどが挙げられた。

反対に，ＬＲＴの改善点として，停留場の場所が遠く利用しにくい事や，自動車の道路とＬＲＴの路線がとても近く，高齢者の多い清原地区ではとても危険であるということ，帰宅する目的以外の乗客が降車する停留場が限られていることなどが挙げられた。

乗車率や降車率が低い停留場付近に観光スポットなどを作ったり，観光資源を開発したりすることで，乗車率や降車率を上げる事で，まちの活性化に繋がると考えた。

また，ＬＲＴ車両内に荷物を置く場所を作り，自転車も一緒に持ち運びが出来たら，自転車のまち宇都宮としてもアピールになるのではないかと考えた。全国に先駆けて運行しているＬＲＴのＰＲを更に広げ，宇都宮市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」としてのまちづくりを進めていければよいのではないかと，私達は考えた。

「地域未来会議」を通して，地域の大人の方々と話す機会を頂き，様々な考えを知り，より考えを深めることが出来た。その中で，中学生の私達に出来る事,それは地域の現状把握や課題を知ることだと考えた。それらの事に対して，今回のまちづくり懇談会を通して，誰もが快適に暮らすことが出来る魅力と活気あふれる清原地域となる様，努力していきたい。

回　答	所管課：　ＬＲＴ整備課

【市長】

ＬＲＴ（ライトライン）が開業して分かったこと，良い点も悪い点も開業しないとわからなかったことがある

また，開業前から分かっているようなこともあったかと思うが，もちろん開業前に分かったことは全て対応させていただいたが，問題はこれからライトラインをどうやって使っていただくかということも含めて，また，それをどうまちづくりに活かしていくかということも含めて，改善点等はどんどん修復をしていきたいと考えている。

この中で清原地区の皆様には，様々な御意見をいただけて感謝申し上げる。

さて，このライトラインを更に御利用していただくため，ライトラインと沿線地域の魅力を高めていくことが大変重要であると考える。

そのような中，沿線の店舗等と連携をして，沿線の魅力的な飲食店や施設などを紹介し，ライトラインを通勤通学だけではなくて，日々の生活が潤っていけるような,「ライトラインおさんぽブック」を作らせていただいた。また，ライトラインの運行会社である宇都宮ライトレール株式会社においても，宇都宮餃子会や沿線店舗と連携した特典付きの「ライトライン一日乗車券」を販売し，利用促進にも取り組んでいる。

今後は，ライトラインの車両基地がある平石停留場付近に，スケートボードなどのアーバンスポーツの開催や地元農産物の販売が出来る店舗等を整備した「東部総合公園」を建設予定である。地域との連携を強めて，沿線地域の魅力発信，そして沿線地域のまちづくりに取り組んでいく。

また，御指摘があった自転車をライトラインの車内にそのまま持ち込むことが出来るサイクルトレインであるが,これも素晴らしい御意見である。先ずは,観光目的での利用を想定した貸し切り電車での実施を実験的に行っていきたいと思っている。最終的にはサイクルトレイン専用の車両を購入することが一番よいので，それを達成していきたいと思っている。その前に，一度貸し切り状態でどういう状況になるかというのも，早速試していきたいと思う。

ライトラインについては国外からも注目を浴びている。国内では，３００件以上の視察が続いているが，海外，アフリカの方々も大使館の大使等が視察に来ていただいている。ヨーロッパも含めて海外の方が増えているが，その方々にとってＬＲＴはそんなに珍しくなく，日常の生活の中にある。

なぜ来るかというと，再生可能エネルギー１００％で走る，茂原のゴミ焼却施設でごみを燃やした時に出るエネルギーを電気に変え，その電気で走るＬＲＴは，ＣＯ２を出さないばかりか，その電気は全て自前で作っている。これから宇都宮市内全域を，自前の再生可能エネルギーで賄っていくような，そうい

う夢を持っているという話を冒頭のあいさつの中でさせていただいたが，それを現実的に行っているのがライトラインという事である。

世界で初めてであり，そういうものを見学に来ていただいているので，積極的にこういったＰＲも行っていきたいと考えている。

引き続き「地域未来会議」で大人の方と一緒に話し合いをし，若い柔軟な発想で，今を生きる市民と未来を生きるこういう世代の子どもたちの誰もが，豊かで便利に安心して暮らすことが出来るという宇都宮を作って行きたいと思う。中学生ですから，たくさん夢を持っていただきたい。

■地域代表意見２（要旨）

テーマ	清原中央公園の更なる活用について

昨年のＬＲＴ開通以降，清原地区では開通を祝い，既存のイベントの他に地区の賑わい創出に向けた様々なイベントが開催された。そして，市ＮＣＣ推進課所管による社会実験「きよとこ　清原マルシェ」が２回開催され，多くの知見が得られたと思量される。今年度においても２回の「きよとこ　清原マルシェ」が予定され，清原地区としても，今後の地域づくりへのステップをいただいたと感謝申し上げる。

開通後の各種イベントで強く感じた事は，“子どもを含む家族連れ”の来場・参加者が多かった点である。宇都宮駅東口地区からＬＲＴで来場された方も多かったと思うが，この清原地区内の子ども連れの参加もかなり多かったと確信をしている。清原地区には１２保育園，５小学校があり，ゆいの杜をはじめ人口３万人を超えているが，この中に占める子育て世代の割合は，今後とも増える予想であり，子育てにやさしい清原を創って行かなければならない。

そこで，多くのイベント会場となった「清原中央公園」の更なる活用を図るべく，芝生公園の中と近辺に次のような設備が整備出来ないか，教示いただきたい。

一つは，幼児から小学校低・中学年くらいまで遊べる遊具の設置である。

二つは，椅子，テーブル等休憩スペースの設置である。

三つは，ステージの設置である。

四つは，市民参加型の花壇整備である。勿論，子ども達，園児・小学校児童の手植え等を含んで花壇の整備が出来ないものかなと思っている。

清原地区の住民はもちろん，公共交通を利用して市内各地域から清原に訪れる多くの市民が憩い，楽しめる場所とする事で，清原中央公園の活用可能性が更に広がると考える。

清原地区には，従来から様々なイベントやおもてなし事業を実施してきたパワー，実績がある。ＬＲＴ開業というビッグチャンスを更に大きく発展させ，清原中央公園を活用した地域振興を推進していく為，環境を整備していただきたく意見を申し上げる。

回　答	所管課：　スポーツ都市推進課，ＮＣＣ推進課

【市長】

御指摘のあった清原中央公園であるが，市民の皆様方に御利用いただき，なくてはならない市民施設になっている。野球場や体育館，テニスコートといったスポーツ施設利用，そして子どもから高齢者まで，多くの市民の皆様に御利

用いただいているが，特に「宇都宮マラソン大会」また「宇都宮清原クリテリウム」に関しては，毎年清原の皆様方にお力をいただき，マラソン大会では鍋まで振るまっていただいている。感謝申し上げる。

令和５年度には，清原中央公園で社会実験である「きよとこ 清原マルシェ」などを実施していただいた。

このような中，昨年８月のライトライン開通により，公園へのアクセス性がこれまで以上に向上した。今後更に利用者が見込まれると思う。

地域の賑わいや活性化にも繋がっていく施設になるものと考えているので，芝生広場等を利用される来訪者また出店者の利便性向上を図るため，今年度は，電気と水道設備を新たに整備して，「きよとこ　清原マルシェ」など，イベント開催時における環境を整えて，利活用の促進を図っていく。

電気については９月頃には使えることが出来るように，また水道については，同じく９月後半くらいには使える事が出来るように整備していく。わざわざ水を汲みに行ったり，バケツに水を溜める必要がなく，イベントがしやすいよう，電気と水道の設備を設置して参りたい。

また，今回御提案いただいた，芝生広場等への遊具，休憩スペースと併せて，花壇等の設置についても，憩いの場として，利用者の利便性や快適性を高められることに繋がるので，地域の皆様と意見交換を行いながら検討していきたいと思う。

遊具もどんどん新しいものが開発されている。子ども達に喜んでもらえるような安全な遊具というのもあるので，皆さんといろいろ話をしながら設置に向けて，選定も含め協議をする事が出来ればと思っているので，御協力をお願いする。

また，ベンチなどを見ても少し古くなり過ぎているので，遊具と併せて設置出来ればと思っている。それについても位置も含めて，御協議に付きあっていただければと思うので，お願いする。

また，ステージはイベント時の演奏や発表などにおいて，効果的な設備である。イベントごとに必要なステージの広さや設置する場所も異なっている。プロのイベントの方の話によると，それぞれのイベントに併せた，自由度の高い仮設での設置が良いのではないかと言われているので，このことについても御意見をいただければと思う。

今後も清原中央公園の利用促進また地域の活力づくりに繋げられる施設整備を実施していきたいと思う。また，「きよとこ　清原マルシェ」については，本年９月の開催に向けて，民間のアイデアやノウハウを生かした，新たな取り組みの実施など，内容の充実が図られるよう，清原地域振興協議会の皆様とともに取り組んでいきたいと思うので，御協力をよろしくお願いする

■地域代表意見３（要旨）

テーマ	エコパーク板戸跡地の早期利活用の要請について

地域では，昨年８月２６日にＬＲＴが開通し，多くの乗客が利用している状況について，大変喜ばしく受け止めている。この間，地域も行政も一緒になって各種イベントなどを実施してきた。こうした中，今後も地域外からの多くの観光客に清原地域に何度も足を運んでもらうためには，観光施設や歴史あるものや食事処等が多く必要と考えている。そこで，更なる地域活性化を推し進めるための新たな施設の候補地の１つとして「エコパーク板戸」の跡地活用を要請する。

エコパーク板戸最終処分場は，平成１６年度の埋め立て開始から令和２年度の埋め立て終了まで，１６年間と長く業務を遂行し，その業務が終了した。清原地域，特に板戸町はその間，地域として宇都宮市全体のゴミ処理行政に対して，十二分な協力と理解をしてきたと自負している。

当会及び当自治会は，エコパーク板戸最終処分場の埋め立て終了２年前から定期的に，跡地活用の話し合いを担当部署と行ってきたが，市の回答は「市役所内の関係部署と調整しており，時間が掛かるので，もう少し時間をいただきたい」という事で，この間，具体的な計画は示されていない。

エコパーク板戸の敷地面積は約４０ヘクタールあり，広大な場所となっている。このうち遮水シートを地下に敷かれた埋め立て面積は，わずか３．３ヘクタールのみである。この現場は５年間を過ぎれば全て利活用でき，ＬＲＴのゆいの杜西停留場から近くなので，レンタル自転車を利用して観光できる施設の造設を提案する。

市長には，地域の貢献に対して報われるエコパーク板戸の跡地活用をお願いし，清原地域の観光スポットとして，観光客にアピールできるような施設整備を要請する。清原地区への新たな観光スポットに，ＬＲＴ利用者が訪れるようにして，乗車客の増員に活用していただきたいと思っている。

最近，エコパーク板戸周辺では，県外からの不法残土投棄が頻発している。今後はエコパーク板戸の敷地内にも発生する恐れが想定されるので，早急な対応をお願いする。

最後にエコパーク板戸は宇都宮市の所有地である。早急に用地有効活用の検討をお願いしたいと思うので，よろしくお願いする。

回　答	所管課：廃棄物施設課，廃棄物政策課

【市長】

エコパーク板戸につきましては，皆様方の御理解と御協力をいただき，最終

処分場としての使命を果たすことが出来た。

富屋地区に第２エコパークという事で，次の最終処分場を建設をしたが，その時の地元の皆様の反応は全く異論なく，無事に完成することができ，供用が開始されている。これも皆様方の御理解と御協力の賜物である。心から御礼を申し上げる。

跡地の利用であるが，令和２年度の埋立の完了以降，地元「板戸町の未来を考える・計画する会」の皆様との意見交換会などを実施しながら，今後の跡地利用の方向性を定め，令和４年１０月には，本市から整備コンセプトを提示して，皆様から御意見をいただいたことから，御意見を踏まえ，更なる検討を進めている段階まで来ていた所であったが，エコパーク板戸では，令和５年３月に埋立地内部から浸出水の漏水が発見され，地元や近隣の皆様に大変御心配をおかけしたところである。現在，早急な止水対策の実施に向けた工事設計等を進めて，何とか工事を早く進めていきたいと考えている。

この対策の実施後については，埋立地の利用に制限が生じるなど，整備コンセプトの検討にも影響を及ぼす可能性があるので，最優先で止水対策の準備を進めているところである。なお，止水対策の進捗については，随時，地元の皆様方に情報を提供させていただく。

今後は止水対策実施後の状況を踏まえながら，引き続き，地元の皆様との意見交換会を重ね，整備コンセプトの検討を進めていく。

二つ目の不法残土投棄対策については，本市では，現在，不適正な土砂盛土の未然防止と早期発見を図るため，パトロールやカメラによる監視を行っている。適宜警察とも連携をしながら，その行為者の特定と指導等を行っている。

また，板戸町地内においては，最近，不適正な土砂盛土事案が発生していることから，土地所有者による適正な土地の管理をお願いするとともに，地域の皆様と連携を密にしながら，民間等の警備会社にも協力をいただき，夜間時のパトロールも強化をしているところである。

今後も地域の皆様や関係機関と連携をしながら，地域の安全安心の確保に努めていく。

■自由討議（要旨）

発 言 1	ＬＲＴを活用した清原地区の活性化

最近，私の住む清原地区にＬＲＴが開通し，非常に便利になった。しかし，清原地区市民センター前停留場を普段使っていて気付くことがある。私も休みの日に利用しているが，利用者がほぼ地域の人で，観光客が余り降りないという事である。この停留場にも観光客が降りて利用する人が増えれば，地域がもっと活性化すると思う。

私の提言は，清原地区市民センター前停留場付近に，資料展示や工場案内，直販売店などが入った市営のパビリオンを設営し，スマホアプリでＬＲＴと地域，企業を連携する事である。

宇都宮清原工業団地は国内最大規模の内陸型工業団地であり，高度技術集積都市を整備する宇都宮テクノポリス計画の中心的役割を担っている。キャノンやカルビー，日本たばこ産業，久光製薬，中外製薬，ミツトヨ，大徳食品，マルハニチロなど有数の企業がある。また農業も盛んであり，清原球場等の大きな施設もある。

パビリオンを設営し，地域の工業製品や食品，農作物等を直販売店で売ったり，工場見学等の概要や工業製品に関わる資料展示をしたりするなどして，地域や企業のＰＲが出来ると良いのではないかと思う。

また，ＰＲの手段の一つとして，ＬＲＴの車両位置をリアルタイムで表示でき利用しやすくしたり，地域のマップやお薦めのお店情報，各企業のＨＰリンクに飛べるようなＬＲＴアプリを開発できたら，更に便利になると思う。

以上により，地域や企業，自治体がＷｉｎ-Ｗｉｎの関係になるようなパビリオンの建設とアプリ開発を提言する。

回　答	所管課：ＮＣＣ推進課，ＬＲＴ整備課

【市長】

昨年度，ライトラインのパンフレットの作成に清陵高等学校の生徒の皆様には，御協力いただいた。感謝申し上げる。

皆様の声を反映して，お蔭で良いパンフレットが完成した。

御提案いただいた，農産物や工業製品などの清原地区の魅力を発信することによって，地域内外からの来訪を促進して，賑わいや交流を創出することは，地域の更なる活性化に繋がる大変重要なことであると思う。つまりは新たなまちづくりが始まるという事になる。

その取組の一つとして，昨年９月と本年２月の２回にわたって，地元まちづ

くり団体の皆様や清原工業団地立地企業等とともに，停留場周辺の緑地等を活用して，地元農産物の販売や，立地企業の製品展示などを行った「きよとこ 清原マルシェ」を開催した。

このイベントでは，清原地域はもとより，市内外からの多くの来場者でにぎわい，「地元農産物や清原工業団地の製品を知る良いきっかけになった」，また「ライトラインに乗って向かう目的地があって良かった」，といった感想をたくさんいただいた。清原地区のＰＲや，地域の活性化に繋がったものと考えている。

こうした取り組みを継続して実施していくことが，清原地区のＰＲまた更なる地域の活性化，まちづくりのために有効であるので，本年９月にも「きよとこ 清原マルシェ」を開催する予定である。清陵高等学校の皆様も，引き続きボランティアとして御協力をいただけると伺っている。

是非，御家族や御友人にもお声掛けをいただき，御来場下さるよう，お願いする。

なお，パビリオンなど常設の情報発信機能を導入する事についてであるが，「きよとこ 清原マルシェ」を実施していく中で，皆様と意見交換を行いながら検討していきたいと思う。

二つ目のＬＲＴのアプリ開発であるが，現在，周辺のお店情報の発信などは，沿線店舗等と連携をして，沿線の魅力的な飲食店とか施設などを紹介する「ライトラインおさんぽブック」の配布や清原地区市民センター前トランジットセンターの待合室などに設置したデジタルサイネージなどによって情報の発信に取り組んでいる。

こうした中，本市もライトラインの魅力や利便性向上のみならず，様々な分野において，デジタル技術を活用した更なるサービス向上の取組は，大変重要だと認識している。

御提案のＬＲＴアプリの開発であるが，現在，ライトラインの運行会社である宇都宮ライトレール株式会社においても，沿線地域の魅力や運行のサービス向上に有効な手段と考えており，ライトラインの位置情報や運行情報が分かるようなシステムについて，様々な検討を進めているので，会社にも御意見を伝えていきたいと考えている。

引き続きいただいた御提案を踏まえながら，沿線を始めとする地域の皆様や企業と連携して，芳賀町と宇都宮ライトレール株式会社と一緒に，沿線地域の魅力とライトラインに乗る魅力というものを発信して，更なる利用促進，まちづくりに繋げていく。

発 言 ２	地域内交通の活用について

私からは，地域内交通について，一つお話しをさせていただきたい。

私は，生まれも育ちもこの清原地区で４５年間生活をしているが，この二十数年，清原地区は，ものすごい勢いで発展していると身をもって感じている。

昨年開業したＬＲＴのお蔭で清原地区の住民の，出掛ける機会も多くなったのではないかなと思っているが，私の住んでいる地域，１２３号線の南側の，２０代・３０代・４０代の若手の方で「意外と使いづらい」という声をよく耳にする。理由を聞くと，「停留場が遠い」「停留場まで車で行っても駐車場に置けないときがある」「行く足がない」など，そういう話が多くあがるが，私が「デマンドタクシーの使用」の話をすると，意外と使い方を知らない，中にはデマンドタクシー自体の存在を知らないという方も結構いる。私も存在は知っていたが，使い方を知らないという住民の一人であった。今回利用しようと思い，地区市民センターの方に使用方法などいろいろ確認をして，利用の方法が分かった。その時にどういう年代層が使っているのか見たが，やはり高齢者のリピーターが多い。私達コア世代，子どもを育てた親世代，若い年齢層の利用率が低いというのは，とても残念であり，もったいないと感じた。

学生が持っている totra カードを使うと，地域内交通，ＬＲＴ，バス等を利用して，乗り継ぎ割引も使える。親世代が知らないと子どもも使えない。もったいないと感じした。

子ども達が使えるようになれば，長期休業中に例えば地域内交通とＬＲＴを使って図書館に行ったり，病院に行ったり，そういう安心安全面でも親御さんにも使ってもらえる。そのような若い世代が使うようになると，これからのニーズに新たな活用方法が見えて，今後更なる清原地区の発展にもつながるのではないかと感じた。

市への要望として，地域内交通のＰＲ活動の強化と若い世代も含め，住民が使いやすい地域内交通となる様な支援をいただきたい。

最後になるが，「清原地区っていいよね」と言ってもらえ「清原地区に住んでみたいよね」と思ってもらえるような，そんなまちになって行けばよいと私は思う。

清原中学校地域協議会といたしまして，もっとこの地域内交通を広める目的として，親学講座等を開きたいと思っているので，よろしくお願いする。

回　答	所管課：交通政策課

【市長】

若い方だけでなく，車の恩恵を受けている方は，公共交通はよく知らない，バスが何処を通っているのかわからない，停留場がどこにあるのかわからない

という方がいる。そのような中，車の運転が出来なくなった時のために，市では車の運転が出来るうちから，週に１回でよいので，バスや公共交通を乗る習慣をつけてくださいという話をお願いをしているところである。

お話があった「清原っていいところだよね，良いまちだよね。住んでみたいよね」というのは，清原に住んでいる人はあまり実感がわいていないかもしれないが，清原以外の人，特に西側に住んでいる人は，「清原っていいよな」と皆様が口にしている。特にゆいの杜は一つの都市である。宇都宮から脱しても一都市になるぐらいの素晴らしい所である。清原は３万人位の人数だと思うが，他の市では３万人に満たない，あるいは３万人を目標にしているような市もあるくらいであるから，清原というのは，凄いところだと，全体を見ていて思う。是非，宇都宮市民の奥ゆかしい所は取っておきながらも，自慢をするという事，「清原はこんなにいいところだ」という，自慢をするようなことも皆様には積極的に発信していただくと，まちづくりが更に全地区で加速すると思う。

地域内交通であるが，鉄道，バスなどの既存公共交通を補完する地域に最も身近な移動手段として導入を進めてきた。

平成２０年に市内で初めて運行を開始した「清原さきがけ号」が，まさに宇都宮市の地域内交通の先駆けとなって，その後，清原地区では，「板戸のぞみ号」「清南スマイル号」が運行を開始された。現在市内においては，１５地区１８路線まで，導入が拡大しているところである。本当に清原地区のお蔭である。

また，地域内交通については，自分達の交通を「つくり」「守り」「育てる」という理念の元で，地域が主体となって運営をいただいており，自治会支援金や企業協賛金の確保など，現在の「地域が支える運行」の仕組みを作っていただいたのは，「清原さきがけ号」である。改めて清原地区の皆様に感謝申し上げる。

お話いただいた「清南スマイル号」につきましては，地域運営組織と宇都宮市が連携しながら，令和５年８月のライトライン開業と合わせて，ライトラインの「清原地区市民センター前停留場」や「飛山城跡停留場」などを目的施設として新たに設定するなど，利便性の向上を図ってきたところである。お蔭様で年間利用者数は５，０００人を既に超え高齢者の方を中心に御利用いただいている。

また，地域運営組織においては，これまでも日常利用に加えて，文化祭や農業祭等のイベント時に併せた臨時運行も行っていただくなど，更なる認知度の向上と利用者の拡大に取り組んでいただいている。

本市としても，若年層を含めた幅広い年齢層の方に対して，地域内交通の認知度の向上を図り，利用者を拡大させていくことが必要だと考えており，令和４年度に，市内の全中高生を対象としたtotraの配付事業を実施したところであり，本年度は小学１年生から６年生にも配付を開始したところである。

このような中，令和５年度には，清原地域において，清原中学校の新中学１

年生へのtotraの配付に併せた「出前講座」の実施や，児童生徒などを対象とした「ライトライン乗り方教室」の実施を通じて，totra を活用したライトライン・バス・地域内交通の乗り方や乗り継ぎ割引制度などの周知について，学校と連携しながら取り組んできたところであり，市内の全小学生を対象としたtotra配付事業についても，先程申し上げたように開始したところである。

今後は，地域運営組織の方々より，９月に予定されている「きよとこ 清原マルシェ」などにおきまして臨時運行を行うアイデアをいただいていることから，本市としても，そうした取組を支援するとともに，引き続き，中学生などを対象とした出前講座を実施するなど，若い世代を含めた幅広い年齢層の方に地域内交通が認知され，利用されるよう積極的に取り組んでいく。

結びに，地域の皆様方が自主的に「親学出前講座」を開催し，地域内交通を取り上げて頂く事に感謝を申し上げる。講座の開催にあたっては，市としても講師派遣など積極的に支援させていただくので，是非お声を掛けていただきたい。

発 言 ３	清原地区ライトライン停留場の駐輪場の屋根の設置について

今般，ＬＲＴ導入に当たりましては，清原地区の全停留場に駐輪場を作っていただき，感謝申し上げる。

先程，中学生からお話いただいたように清原中学校の全校生徒は８００名という事であるが，この方達が市内の方へ今までは自転車で通っていた。お蔭様で駐輪場を全部停留場に作っていただきよかったが，ゆいの杜中央停留場と東停留場の所は暫定的に場所がなく，現状，屋根もなく，ただ白線が引いてあるだけである。

中央停留場は利用が多いので，出来れば屋根をつけていただきたい。柵などを作るなど利用しやすい環境を作っていただければ，もっと利用するのではと思うので，是非お願いしたい。

回　答	所管課：道路建設課

【市長】

御指摘のとおり，ゆいの杜の停留場は立派なものを作ろうということであったが，場所がなく，ああいう事になったが，これで終わりではないので，屋根付きのしっかりとした駐輪場の確保に向けて市としても努力をしていきたいと思う。

また，土地を提供していただけるようなお話がありましたら，よろしくお願いする。

発 言 4	清陵高等学校の存続について

去年の春からＬＲＴ沿線まちづくりの会合に参加しているが,「さあこれからどうしようか」と相談しているときに，去年の秋ごろ新聞で，清陵高等学校の普通科が廃止になるということを知った。

県の問題であるが，これは清原の住民にとって，市内の方にはそんなにも思わないかもわからないが，子どもが宇都宮の私立高校とかいった場合に，授業料，あとここからＬＲＴに乗って，それからまた駅からバスに乗って，時間的にも経済的にも親にとっては凄く負担が大きい。

先程，話があったように，この清原地区が３万人の地域ならば，県立清陵高等学校は是非存続してほしい。今まで募集が少なくなったらしいが，今後何年かにわたって，ＬＲＴの効果も出てくると思われ，ゆいの杜もこれから５～６年経てば，かなりの数の高校への進学が増えるので，それを見てからの判断でも遅くないと思う。

是非，市長の方から県へ判断をもう少し延ばしてほしいと，話してくれればと思う。

回　答	所管課：教育企画課

【市長】

ゆいの杜小学校であるが，全国の市長が集まるような会議で，事例の１つとして発表する機会があるが，この少子化の中で，新しい小学校が出来る。しかも約８５０名のマンモス小学校ということに出席者は皆，耳を疑う。「統廃合で３つ４つの小学校を一つにして，新しい小学校をつくったのだろう」というような問いかけをよくされるが,「新設ですよ」という話をするとびっくりされ,全国的にも本当にまれだと思う。

ＬＲＴ効果だと思うが，全高校を見ても県内を見ても，まさしく少子化の影響を受けて，特に宇都宮・小山・那須塩原といった新幹線の停まる地以外は,著しい少子化によって，人口減少が進んでいる。

高校だけでなく，様々な施設の統廃合は，県がしていかなければならないという事で，苦労しながらその実施に努めている。その中の一環として，清陵高等学校もフレックス・ハイスクールというような考え方を，県がしたと思う。

宇都宮市だけを端的に見ての結論ではないという事だけは，我々もきちんと説明をいただいているが,御指摘があったことについては,県の教育委員会に,お伝えをしていきたいと思う。

発 言 ５	ライトラインの時刻表について

清原地区市民センター前から宇都宮駅東口行きと，清原地区市民センター前から芳賀・高根沢工業団地行きの時刻表を作り，清原台５丁目の「サロンいこい」という所の２０名の方に配布したところ，清原地区市民センター前から宇都宮駅東口まで何分かかるのかという質問が多くあった。そのため，清原地区市民センターにお願いしたところ，普通運賃とキロメートルの一覧表をいただいたが，それを見たところ，何分かかるかという事は書いていない。

一駅一駅の所要時間が何分なのか，３分とか２分半とかそういうものがわかる一覧表を時刻表に加えていただけないかというお願いである。

回　答	所管：ＬＲＴ管理課

【市長】

公共交通を利用していただきたいというお願いをしながら公共交通が充分でないという地域が全国にはたくさんある。

しかし,公共交通を利用していただかなくてはならないという時代になった。

車を運転することはいつまでも出来ることではないので，将来を考えて公共交通網をネットワーク型コンパクトシティとして整備しているが，利便性向上を図らなければ，乗りたいという気持ちにはならないと思う。

その一つをお示しいただいたので，見やすい時刻表など工夫していきたいと思う。

また紙資料の他に，携帯電話でも見られるような時刻表もあるので，見ていただきたいと思うが，まずは便利な紙の媒体による時刻表がわかりやすくなるような仕組み作りをしていきたいと思う。

発 言 ６	暮らしやすいまちづくりについて

市長から宇都宮市の人口を減らさず極力維持するために，移住を増やしたいという話やネットワーク型コンパクトシティという話があった。

定住するということを考え，どういったものが必要であるかと考えると，１つは仕事である。これは清原工業団地や周辺の工業団地があり，どんどんと人が入って来ている。

もう１つは，移住してくる年齢層を見ると，子どもの教育である。また，もう１つは暮らしである。暮らしの中で言うと，その中の１つに医療がある。そのような中で宇都宮市には，済生会病院や国立病院機構があり，大きい総合病院は，非常に恵まれた数がある。しかしながら，そういった病院に行くのには，主要な駅や停留場から少し離れている。

ＬＲＴが開通し，これから西側延伸もある。しかし，行った先のその先で更なる移動手段を探さなければならないということになっている。まちづくり懇談会に参加されている方を見ていただきたい。１０年後はどうなるかというと，３分の１とか４分の１，５分の１くらいの方が，免許を返納されてしまう。免許を返納された方々が，歩いて病院に行けるか考えると，ＬＲＴみたいな主軸であるところから，離れた地域の病院に向かうのがなかなか辛くなる。

そのようなことから駅直結の総合病院などを誘致できれば一番よいと思うので，検討いただきたい。

回　答	所管課：交通政策課，ＮＣＣ推進課

【市長】

まさしくＮＣＣは，そういうまちづくりであるが，これが宇都宮市のネットワーク型コンパクトシティの公共交通のネットワークの部分である。（スライド投影）魚の骨のイメージ図であるが，真ん中の黄色い魚の背骨，これが東西の軸だと思っていただきたい。これを縦にすると南北の軸で既に南北の軸は，ＪＲ線・東武線があるが，宇都宮には東西の軸がない。東西の軸の黄色いラインが鉄道であったり，モノレールであったり，地下鉄であったりする。つまりは，御指摘のあった主軸をきちんと置かないと，これを全部バスが担うとか地域内交通が全部担うと，公共交通が破綻をしてしまう。よって，それぞれの役割の大量輸送，速達性，定時性に優れているものをこの黄色い主軸に置く。

宇都宮は財政的にいっても地下鉄やモノレールや鉄道は出来ないので，宇都宮の身の丈に合ったＬＲＴというのを選択した。それに対して，今度は縦にこの小骨がついている。これがバスラインである。バスラインをどんどん作って行き，矢印の青い部分の隙間を地域内交通が担って行くということである。家

からドアツードアで乗り出して，乗換さえすれば，バスやＬＲＴ，ＪＲ線で宇都宮市内は，自分の力で移動が出来るというまちになる。大きな病院あるいは銀行などに行くためには，西側についてはまだ完成をしていない。

ＬＲＴの機軸を通して，バス路線を増やして，地域内交通も同時に埋めていく。こういう公共交通網を作って，誰もが移動しやすいまちをつくるとともに，コンパクトなまちの中に，日常生活に必要な総合病院や銀行などを行政が責任をもって誘致をしていく。そのように自分の力で移動が出来て，利用が出来て，３６５日生活に困らない，というまちを目指している。今すぐというわけにはいかないが，そういうまちを必ずつくっていくので，是非御理解をいただきたい。